

共通科目



授業科目	看護管理・政策論		科目責任者	春山 早苗	単位数	2.0	必修選択別	必修
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次 前学期
到達目標等	概要	保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動や管理の組織化の方法、ならびに看護職の資質向上のための制度改革や政策決定に関する看護職の働きかけについて理解する。						
	到達目標	看護マネジメントや看護サ・ビスの組織化、施策化など看護管理における理論と看護管理の過程、活動方法を教授する。保健医療福祉システムにおける安全管理や看護の質保証などのための高度実践看護職の機能・役割とリーダーシップ、高度実践看護職の行う医療チ・ム内及び保健医療福祉関係者間の調整とリーダーシップ、管理的立場にある看護職との協働に関わる活動方法を教授する。またケアの質向上や看護職の資質向上のための制度改革や政策決定過程への高度実践看護職の働きかけについて教授する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		看護制度の変遷と構造					(非常勤)平野	
2		看護政策の基本的考え方と政策過程					(非常勤)平野	
3		資格制度に関する政策の課題					(非常勤)平野	
4		人材確保策に関する政策の課題					(非常勤)平野	
5		保健医療福祉制度の課題と高度実践看護職の関わり					(非常勤)平野	
6		政策課題に関する討議					(非常勤)平野	
7		情報管理と看護政策、日本の保健医療福祉制度下における情報管理の課題					(非常勤)水流	
8		看護情報の標準化と医療・看護の質保証に向けての政策課題					(非常勤)水流	
9		看護管理論と看護組織論					(非常勤)福田	
10		看護管理の過程、看護管理の組織と運営の実際と課題					(非常勤)福田	
11		看護マネジメントとリーダーシップ、人的資源活用論					春山早苗	
12		チーム医療を進める組織運営					(非常勤)福田	
13		リスクマネジメントの実際と課題					(非常勤)福田	
14		看護職のキャリア開発の実際と高度実践看護職の機能・役割					(非常勤)福田	
15		高度実践看護職の行う保健医療福祉に携わる人々の調整とリーダーシップ					春山早苗	
16		高度実践看護職の行う看護管理に携わる看護職との協力					春山早苗	
教科書	「看護制度と政策」野村陽子著、法政大学出版局、2015年			参考書等	指定しない			

履修条件	なし	評価方法	1．レポート等の記録物の提出（30％） 2．授業への参加態度（プレゼンテーションおよび討議内容を含む）（70％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	・本科目は、専門看護師教育課程（38単位）の共通科目A「看護管理論」（1単位）、「看護政策論」（1単位）に相当する。 ・事前準備（予習）として、保健師助産師看護師法を一読し、また看護管理の基本について自己学習した上で授業に臨むこと。事後（復習）は、現在の看護政策の動向および実践現場の看護管理上の課題に対し、本科目で学修したことを適用し、高度実践看護職としての活動方法を考えること。予習復習に要する時間は46時間以上。		

授業科目	フィジカルアセスメント特論		科目責任者	村上 礼子	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次 前学期
到達目標等	概要	高度実践看護職として、複雑な健康問題をもった対象の身体状況を的確にアセスメントし、臨床判断を行うために、高度な知識・技術の修得についてシミュレーション学習を取り入れながら教授する。特に、対象の複雑な症候に対する臨床判断プロセスを磨くための技能を教授する。						
	到達目標	高度実践看護職として、複雑な健康問題をもった対象の身体状況を査定し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を修得する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		Advanced呼吸器系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診)と臨床判断	e-ラーニング受講コンテンツ：第2回、第5-6回、第13-14回				古島、(非常勤)倉科	
2		Advanced循環器系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診)と臨床判断	e-ラーニング受講コンテンツ：第2回、第5-6回				村上礼子、(非常勤)倉科	
3		Advanced消化器系、腎・泌尿器系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診)と臨床判断	e-ラーニング受講コンテンツ：第2回、第7-8回				村上礼子、(非常勤)倉科	
4-5		Advanced筋骨格系、中枢神経系・内分泌代謝系のフィジカルイグザミネーション (問診・視診・打診・聴診・触診)と臨床判断	e-ラーニング受講コンテンツ：第1回、第2回、第9-10回、第11-12回、第15-16回				村上礼子、(非常勤)倉科	
6		症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断	胸痛に関する事例検討				(非常勤)阿久津、村上礼子	
7		症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断	腹痛に関する事例検討				(非常勤)阿久津、村上礼子	
8		症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断	複雑な健康問題(胸痛・腹痛)の事例検討				古島、村上礼子	
9		症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断	呼吸困難に関する事例検討				(非常勤)三須、古島	
10		症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断	複雑な健康問題(呼吸困難)の事例検討				(非常勤)三須、古島	
11		症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断	意識障害・頭痛に関する事例検討				(非常勤)谷島、村上礼子	
12		症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断	複雑な健康問題(意識障害・頭痛)の事例検討				(非常勤)谷島、村上礼子	
13-15		症状別のフィジカルイグザミネーションと臨床判断	模擬患者に対して身体診察・問診等を行いフィジカルアセスメントと臨床判断の演習を行う。 複雑な健康問題の技術演習 / 呼吸困難・胸痛 複雑な健康問題の技術演習 / 腹痛・発熱 複雑な健康問題の技術演習 / 意識消失・頭痛				村上礼子、古島	
教科書	Margaret A. Fitzgerald : NURSE PRACTITIONER Certification Examination and Practice Preparation 5th, F.A. DAVIDS Company, 2017. 山内豊明著：フィジカルアセスメントガイドブック目と手と耳でここまでわかる(第2版)、医学書院、2012.ほか、適宜、論文を紹介または提示する。			参考書等	適宜、提示する。			

履修条件	なし	評価方法	参加態度20%、討議内容50%、課題30%をもとに総合的に評価する。 【評価のフィードバック方法】学生に講評する。
備考	本科目は、専門看護師教育課程（38単位）の共通科目B「フィジカルアセスメント」（2単位）に相当する。なお、第1回～5回までのe-ラーニングは、自治医科大学学習管理ソフト（Moodle）の「臨床推論/フィジカルアセスメント」のe-ラーニングの事前テストを受け、教育コンテンツを受講し、事後テストを満点になるまで受講し、対面講義・演習に備えること。授業展開後は、知識やスキルの確認に努め、それらの確実な修得を目指すこと。演習ではアクティブ・ラーニングを活用する授業形式である。予習復習に要する時間は12時間以上である。		

授業科目	臨床薬理学特論		科目責任者	大塚 公一郎	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	15	受講セメスター	1,2年次 前学期
到達目標等	概要	薬剤の人体における作用機序と体内動態、有害作用、治療薬物モニタリング等の臨床薬理学の基礎的知識を教授する。緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬物療法について、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための知識と技術を教授する。						
	到達目標	(1) 薬物の人体における作用機序と体内動態の基礎を理解する。 (2) 薬物の有益な効果と有害な効果に関する知識に基づき、臨床における薬物使用とその調整について考えることができる。 (3) 緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための専門看護師の実践について考えることができる。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
第1回		臨床薬理学とは / 最新情報の入手とその理解					(非常勤) 桂田	
第2回		薬の作用と作用機序					(非常勤) 早川	
第3回		薬の吸収・分布・代謝・排泄 / 薬の有害反応・薬物相互作用・中毒					(非常勤) 今井	
第4回		治療薬物モニタリング (TDM) / 症状モニタリング					(非常勤) 園田	
第5回		状況別の臨床薬理学(1) 血圧と薬 (降圧剤)					使用薬物、使用の判断、有害事象等	(非常勤) 星出
第6回		薬剤師の臨床実践現場におけるモニタリング・薬物調整と看護職との協働(2)					在宅療養中の患者の院内・院外処方の処方	(非常勤) 宮原、田村
第7回		状況別の臨床薬理学(6) 救命救急・生命危機状況時の臨床薬理					：使用薬物 (鎮静剤含む)、使用の判断等	(非常勤) 米川
第8回		状況別の臨床薬理学(2) 感染症と薬					感染症と薬の基本用語、抗菌薬とその作用、抗菌薬の副作用、抗菌薬の相互作用	(非常勤) 矢野
第9回		状況別の臨床薬理学(4)がん					使用薬物、使用の判断、有害事象等	(非常勤) 山口
第10回		状況別の臨床薬理学(5)疼痛コントロール					使用薬物、使用の判断、有害事象等	(非常勤) 井上
第11回		看護職による患者の服薬管理の向上を図るための薬剤調整 (薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、服薬指導、生活調整) (1)					事例検討 (講師が示した事例についての意見交換)	(非常勤) 田中、田村
第12回		状況別の臨床薬理学(3) 糖尿病					使用薬物、使用の判断、有害事象等	(非常勤) 倉科
第13回		看護職による患者の服薬管理の向上を図るための薬剤調整 (薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、服薬指導、生活調整) (2)					事例検討 (講師が示した事例についての意見交換)	(非常勤) 東、田村
第14回		状況別の臨床薬理学(7) 精神疾患					使用薬物 (抗不安薬、睡眠薬を含む)、使用の判断、有害事象等	大塚公一郎
第15回		薬剤師の臨床実践現場におけるモニタリング・薬物調整と看護職との協働(1)					入院治療中の患者の薬剤調整	(非常勤) 大柿、田村
教科書	大橋京一、藤村昭夫、渡邊裕司編：疾患からみた臨床薬理学，第3版，じほう，2012．			参考書等	指定しない。授業のなかで適宜指示する。			

履修条件	特になし。	評価方法	参加・討議内容45%（各回3%），課題レポート55%（11・13回8%、上記以外の回3%） 【評価のフィードバック方法】学生に講評する
備考	本科目は、専門看護師教育課程（38単位）の共通科目B「臨床薬理学」（2単位）に相当する。各回の分担教員より、随時、事前準備（予習）の課題が出されるので、テキストを一読し、不明確な点を明確化した上で授業を受けること。事後の展開（復習）の課題についても、各回の分担教員の指示に従って行い、該当する授業の理解を確実なものとする。予習復習に要する時間は46時間以上である。		

授業科目	看護倫理		科目責任者	田村 敦子	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次 後学期
到達目標等	概要	保健医療福祉の現場における倫理的課題と看護職に求められる倫理について教授する。さまざまな看護場面で生じる倫理的な課題や葛藤にアプローチする方法や、関係職種間の倫理的調整に必要な知識を教授し、高度実践看護職が果たす役割について考察する。						
	到達目標	保健医療福祉の現場における倫理的課題と看護職に求められる倫理を理解し、倫理的課題に対するアプローチや関係職種間の調整方法等、高度実践看護職が果たす役割について学修する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1・2		看護職に求められる倫理	第1回 看護実践における倫理的行動 第2回 看護職の倫理的責任				田村 敦子	
3・4		看護実践における倫理的分析和倫理的意思決定	第3回 看護実践における倫理的課題に対するアプローチ 第4回 倫理的意思決定プロセスと倫理的行為の実践				田村 敦子	
5・6		ケアの倫理	第5回 ケアとは何か、その哲学的考察 第6回 現代医療の特質とケアの倫理				(非常勤)加藤	
7・8		人類学の立場からみた死	第7回 異なる生活様式と認識の体系を持つ人々の理解 第8回 人類学の立場からみた死と死に対する情動の普遍性について				(非常勤)渥美	
9		保健医療福祉の現場における倫理的調整の実際と高度実践看護職の役割	ケースを用いて保健医療福祉の現場における倫理的課題や葛藤にアプローチし、関係職種間の倫理的調整等、高度実践看護職が果たす役割について検討する。 救急医療に伴う倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割				田村敦子、(非常勤)渥美・加藤	
10		保健医療福祉の現場における倫理的調整の実際と高度実践看護職の役割	ケースを用いて保健医療福祉の現場における倫理的課題や葛藤にアプローチし、関係職種間の倫理的調整等、高度実践看護職が果たす役割について検討する。 終末期医療に伴う倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割				田村敦子、(非常勤)渥美・加藤	
11		保健医療福祉の現場における倫理的調整の実際と高度実践看護職の役割	ケースを用いて保健医療福祉の現場における倫理的課題や葛藤にアプローチし、関係職種間の倫理的調整等、高度実践看護職が果たす役割について検討する。 高齢者の医療や療養生活に関する倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割				田村敦子、(非常勤)渥美・加藤	
12		保健医療福祉の現場における倫理的調整の実際と高度実践看護職の役割	ケースを用いて保健医療福祉の現場における倫理的課題や葛藤にアプローチし、関係職種間の倫理的調整等、高度実践看護職が果たす役割について検討する。 地域医療における倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割				田村敦子、(非常勤)渥美・加藤	
13		保健医療福祉の現場における倫理的調整の実際と高度実践看護職の役割	ケースを用いて保健医療福祉の現場における倫理的課題や葛藤にアプローチし、関係職種間の倫理的調整等、高度実践看護職が果たす役割について検討する。 アドバンス・ケア・プランニングをめぐる倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割				田村敦子、(非常勤)渥美・加藤	
14		保健医療福祉の現場における倫理的調整の実際と高度実践看護職の役割	ケースを用いて保健医療福祉の現場における倫理的課題や葛藤にアプローチし、関係職種間の倫理的調整等、高度実践看護職が果たす役割について検討する。 インフォームド・コンセントをめぐる倫理的課題と高度実践看護職が果たす役割				田村敦子、(非常勤)渥美・加藤	
15		保健医療福祉の現場における倫理的調整の実際と高度実践看護職の役割	ケースを用いて保健医療福祉の現場における倫理的課題や葛藤にアプローチし、関係職種間の倫理的調整等、高度実践看護職が果たす役割について検討する。 高度実践看護職の行う倫理的調整のまとめ				田村敦子、(非常勤)渥美・加藤	
教科書	指定しない			参考書等	「医療倫理学のABC 第4版」井部俊子監修、服部健司・伊東隆雄編著、メヂカルフレンド社、2018年			

履修条件	なし	評価方法	1. プレゼンテーション内容（25%） 2. 討議内容（25%） 3. 最終レポート（50%）をもとに科目責任者が総合的に評価を行う。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目は専門看護師教育課程（38単位）の共通科目A「看護倫理」（2単位）に相当する。 第9～15回の演習では、アクティブ・ラーニングを活用し、指定のケースを用いて臨地における倫理的課題の調整と高度実践看護職の役割について、履修者によるプレゼンテーションと教員を交えた討議を行い、最終レポート作成につなげていくので、自らの思考の言語化を励行すること。予習復習に要する時間は46時間以上である。		

授業科目	看護継続教育論		科目責任者	塚本 友栄	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次 後学期
到達目標等	概要	看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけとして、教育現象を経験学習の視点から体系的に計画された学習、個人々の自律的な学習を推進するための教育環境づくりに関する方策及び、教育的関わりの方策を教授する。						
	到達目標	看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけとして、様々な学習形態をとる教育環境づくりの方策について理解する。 看護継続教育の実際から、看護ケアの質向上の基盤となる教育的関わりの方策を理解する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
第1回～第6回		高度実践看護職が、看護ケアの質を高めるため看護職に必要な教育的働きかけとして、様々な学習形態をとる教育環境づくりに関する方策						
第1回			科目ガイダンス、および生涯学習における看護継続教育の現況について学ぶ。				塚本友栄・浜端	
第2回			高度な看護実践に必要な授業デザイン及び評価方法に関する知識と技術について学ぶ。				塚本友栄	
第3回			高度な看護実践に必要な看護継続ニーズ・アセスメント及び教育計画に関する知識と技術について学ぶ。				塚本友栄	
第4回			高度実践看護職が、看護ケアの質を高めるために必要な教育的働きかけに言及し、事例または文献を用いて学ぶ。				塚本友栄	
第5回			高度実践看護職が、様々な学習形態をとる教育環境づくりに言及し、事例または文献を用いて学ぶ。				塚本友栄	
第6回		看護継続教育に関わる諸理論、看護実践能力の育成を図るための方策など、看護継続教育に必要な知識と技術	高度実践看護職が、高度な看護実践をするために必要な教育的働きかけと教育環境づくりに関する課題について学ぶ。				塚本友栄	
第7回～第11回								
第7回			看護継続教育に関わる経験学習理論、リフレクションなどの諸理論について学ぶ。				浜端	
第8回			卒前・卒後教育の一環として看護基礎教育と新人教育の現況を概説し、看護実践能力の育成を図るための方策について学ぶ。				浜端	
第9回			ジェネラリストを育成、スペシャリストを育成する教育の現況について学ぶ。				浜端	
第10回			看護管理者育成、看護継続教育における教育者、研究者を育成する教育の現況について学ぶ。				浜端	
第11回			看護実践における組織内・外の看護継続教育の現状と課題について学ぶ。				浜端	
第12回～第15回		各自の所属組織における看護継続教育の実際を通して、看護ケアの質を向上するための教育的関わりの方策						
第12回			所属組織における必要な授業立案とその評価をおこなう。				(非常勤) 福田	
第13回			所属組織における必要な教育プログラムを作成する。				(非常勤) 福田	
第14回			上記で立案した教育計画及びその評価方法について討議する。				(非常勤) 福田	

回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法		担当教員
第15回			看護ケアの質を高めるための看護継続教育の実際を通して、今後取り組むべき自己課題を明確にし、改善策について考察する。		塚本友栄・浜端
教科書	指定しない。			参考書等	・柳沢昌一，三輪健二監訳：省察的实践とは何かプロフェッショナルの行為と思考，鳳書房，2007． ・難波卓志 翻訳：現象学的人間論と看護．医学書院，1999． ・井部俊子監修，手塚恵編集：看護管理学習テキスト第3版第3巻人材管理論，2025年版，日本看護協会出版会，2025．
履修条件	なし。			評価方法	1.課題レポート（50％） 2.プレゼンテーション（30％） 3.参加態度（20％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評、または評価を記載したレポートを返却する
備考	本科目は、専門看護師教育課程（38単位）の共通科目A「看護教育論」（2単位）に相当する。 本科目では、アクティブ・ラーニングを活用する。各教員より事前・事後の学習課題が開講前に提示されるため取り組むこと。予習復習に要する時間は46時間以上。				



専門科目

実践看護学領域 小児看護学



授業科目	小児看護学講義	科目責任者	田村 敦子	単位数	2.0	必修選択別	選択必修
		学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次 前学期
到達目標等	概要	小児看護における主要な理論と、子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活について理解し、それぞれの臨床実践を振り返り、臨床実践への活用について考察する。					
	到達目標	(1) 小児看護における主要な理論を学び、小児看護への活用について思考する。 (2) 子どもと家族の成長と発達を学ぶとともに、成長発達を育む健康な生活を理解し、臨床実践への適用について考察する。					
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法			担当教員	
1		エリクソンの自我発達理論	エリクソンの理論を通して、子どもの自我の発達について学修する。			田村敦子	
2		ピアジェの認知発達理論	ピアジェの理論を通して、認知発達やシンボルとしての言語の発達を学修する。			田村敦子	
3		ボウルビイの愛着理論	ボウルビイの愛着理論を通して、愛着の発達について学修する。			田村敦子	
4		マラー（分離—個体化理論）	マラーの分離—個体化理論を理解し、乳幼児期の発達過程と親子関係の意味を学修する。			田村敦子	
5		ヴィゴツキー（発達と学習）	ヴィゴツキーの発達と学習の理論（発達の最近接領域・媒介・社会文化的文脈）を取り上げ、学習が発達を促進する仕組みを学修する。			田村敦子	
6		親・家族の発達（親性の発達、家族の発達段階、家族の危機）	親性の発達、家族の発達段階、家族の危機について理解し、ライフサイクルの中で家族が経験する変化と課題を学修する。			田村敦子	
7		セルフケア理論	オレムのセルフケア理論を取り上げ、セルフケア要件、セルフケア不足、看護システム概念を学修する。			田村敦子	
8		コーピング理論	ラザルスのストレス・コーピング理論を取り上げ、一次評価・二次評価および問題焦点型・情動焦点型コーピングの特徴を学修する。			田村敦子	
9		アンナ・フロイト（自我と防衛）	アンナ・フロイトの自我と防衛の理論を取り上げ、防衛機制の特徴と心理的適応の過程について学修する。			田村敦子	
10		小児看護における子どもの理解と理論の位置づけ	第1回～第9回の内容から理論の一つを選び、自らの臨床実践に適用し、プレゼンする。第10回でのディスカッションから、実践事例を分析し、課題レポートとしてまとめる。			田村敦子	
11		乳児期の子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活の理解	乳児期の成長発達と家族の発達課題を学び、愛着形成を含む成長発達を育む健康な生活（養育・生活リズム・安全）の要点を学修する。			田村敦子	
12		幼児期の子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活の理解	幼児期の成長発達の特徴と家族の発達課題を理解し、自立の芽生えや生活習慣の形成など成長発達を育む健康な生活について学修する。			田村敦子	
13		学童期の子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活の理解	学童期の成長発達の特徴と家族の発達課題を理解し、学校生活や社会関係の広がりの中で成長発達を育む健康な生活について学修する。			田村敦子	
14		思春期の子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活の理解	思春期の成長発達の特徴と家族の発達課題を理解し、身体的・心理社会的変化の中で成長発達を育む健康な生活について学修する。			田村敦子	
15		子どもの成長と発達、成長発達を育む健康な生活のかかわり	学生自らの臨床実践に合わせ、第11回～第14回の内容から時期の一つを選び、「子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活」についてプレゼンする。プレゼン後のディスカッションから、自らの実践事例を分析し、子どもと家族の成長と発達、成長発達を育む健康な生活について考察し、課題レポートとしてまとめる。			田村敦子	

教科書	・村井潤一編：発達理論をきずく 別冊発達4 ,ミネルヴァ書房,1986 . ・J・ボウルビィ著：黒田実郎他訳：母子関係の理論 ～ ,岩崎学術出版社, 2018 . 他	参考書等	適宜提示する。
履修条件	特になし	評価方法	プレゼンテーションを含んだ討議内容50%,最終課題レポート50%
備考	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目（小児・家族の成長・発達／健康生活に関する科目）（2単位）に相当する。 ・事前準備としてテキストおよびその他関係論文、関連文献について予習する。 ・特別講義は本科目の一環として開講される。		

授業科目	小児看護学講義		科目責任者	田村 敦子	単位数	2.0	必修選択別	必修
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次 前学期
到達目標等	概要	小児看護専門看護師の役割・機能について概括し、今後の実践について思考する。特に小児看護専門看護師の実践する、様々な健康レベルにある子どもと家族に対する、臨床判断に基づく状況に応じた高度な看護実践について教授する。						
	到達目標	(1) 小児看護専門看護師の高度看護実践機能について理解する。 (2) 小児看護専門看護師のコンサルテーション機能について理解する。 (3) 小児看護専門看護師の調整機能について理解する。 (4) 小児看護専門看護師の倫理調整機能について理解する。 (5) 小児看護専門看護師の教育機能について理解する。 (6) 小児看護専門看護師の臨床での研究活動について理解する。 (7) 小児看護専門看護師の地域における活動について理解する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		オリエンテーション 小児看護専門職として必要な機能と役割	小児看護学講義 の到達目標・学習方法・評価方法を共有し、科目の学習の進め方を理解する。小児看護専門職に求められる機能と役割(子ども・家族中心, 権利擁護, 多職種連携等)を学修する。				黒田・田村	
2		小児看護専門看護師の高度看護実践機能	小児看護専門看護師(CNS)に求められる高度看護実践機能(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)について学修する。				村山・田村	
3		小児看護専門看護師のコンサルテーション機能	小児看護専門看護師に求められるコンサルテーション機能の目的と役割を学修する。				村山・田村	
4		小児看護専門看護師の調整機能(コーディネーション機能)	小児看護専門看護師に求められる調整(コーディネーション)機能の目的と役割を学修する。				佐々木・田村	
5		小児看護専門看護師の倫理調整機能	小児看護専門看護師に求められる倫理調整機能の目的と役割を学修する。				龜山・田村	
6		小児看護専門看護師の教育機能	小児看護専門看護師に求められる教育機能の目的と役割を学修する。				井出・田村	
7		小児看護専門看護師の臨床での研究活動	小児看護専門看護師に求められる臨床における研究活動の意義と役割を学修する。				黒田・田村	
8		小児看護専門看護師の倫理調整機能	小児看護専門看護師に求められる倫理調整機能の目的と役割を学修する。				井出・田村	
9～10		PICUに入院する子どもと家族への臨床判断に基づく、状況に応じた高度な看護実践	PICUに入院する子どもと家族の特徴を踏まえ、臨床判断に基づく状況に応じた高度な看護実践(全身状態のアセスメント, 急変予測, 家族支援)を学ぶ。				村山・田村	
11～12		小児がんで入院する子どもと家族への臨床判断に基づく、状況に応じた高度な看護実践	小児がんで入院する子どもと家族の特徴を踏まえ、臨床判断に基づく状況に応じた高度な看護実践(症状マネジメント, 治療過程への支援, 家族支援)を学修する。				田村	
13～14		慢性疾患をもつ子どもと家族への臨床判断に基づく、状況に応じた高度な看護実践	慢性疾患をもつ子どもと家族への臨床判断に基づく看護実践について理解する。臨床見学, 臨床講義, ディスカッションを通して, 長期療養を支える看護支援と家族への関わりを考察する。				黒田・田村	
15		小児看護専門看護師の活動の課題	小児看護専門看護師の活動の現状と課題について理解する。ディスカッションを通して課題を整理し, 小児看護専門看護師の役割発展に向けた視点を検討し課題レポートを作成する。				黒田・田村	
教科書	・中村美鈴他監訳: 高度実践看護-統合的アプローチ・ヘルス出版(原著第5版), 2017. ・井部敏子・大生定義監修: 専門看護師の思考と実践・医学書院, 2015. 他			参考書等	適宜提示する。			
履修条件	特になし			評価方法	プレゼンテーションを含んだ討議内容50%, 課題レポート50%			

備 考	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目（小児看護援助の方法に関する科目）（2単位）に相当する。 ・事前準備としてテキストおよびその他関係論からプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションを行い、授業中に討議した内容から再考察し、それに基づき課題レポートを作成する。 レポート課題：小児看護専門看護師の6つの機能のうち1つについて、自らも実践に関わったケースについて、ケースを紹介するとともに、授業内のディスカッションに基づき、その実践が小児看護専門看護師に求められるレベルとの比較、改善すべき点はどこかについて分析し、まとめる。
--------	--

授業科目	小児看護学講義	科目責任者	田村 敦子	単位数	2.0	必修選択別	必修
		学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次 前学期
到達目標等	概要	小児看護領域での高度看護実践において、倫理的判断にかかわる基本となるガイドライン・最新の研究成果を把握し、医療事故や看護研究における倫理や、倫理的な課題を持つ遺伝性疾患を有する子どもと家族の状況について理解し、小児看護専門看護師の倫理の実践における役割について思考する。					
	到達目標	(1) 小児看護における看護倫理について理解する。 (2) 児童の権利、小児医療・看護の倫理的判断にかかわる種々のガイドライン、最新の研究成果を検討する。 (3) 小児期に発症する遺伝性疾患における倫理に焦点を当て、疾患の成り立ち、子どもと家族の理解から、遺伝性疾患を有する子どもと家族への看護について思考する。 (4) 小児看護専門看護師がかかわる倫理的課題とその解決への働きかけについて理解する。					
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法			担当教員	
1		小児看護と看護倫理	小児看護における看護倫理の基本を学修する。			(非常勤) 大海、田村敦子	
2		小児看護実践における倫理的課題の理解と臨床への適用	児童の権利、小児医療・看護の倫理的判断にかかわる種々のガイドライン、最新の研究成果を検討する。			(非常勤) 大海、田村敦子	
3~6		小児看護実践における倫理的課題の理解と臨床への適用	各院生が担当したガイドライン、研究成果について、プレゼンし、ディスカッションする。さらに、各自の臨床経験に照らして再度分析し、レポートを作成する。			田村敦子、(非常勤) 大海	
7		小児期に発症する遺伝性疾患の成り立ち	小児期に発症する遺伝性疾患の成り立ちと特徴について講義を通して理解し、小児看護に関連する倫理的課題について考察し学修する。			(非常勤) 中込、田村敦子	
8		小児期に発症する遺伝性疾患への対応～倫理的視点から～	小児期に発症する遺伝性疾患への対応について倫理的視点から講義と事例検討を通して理解し、子どもと家族への意思決定支援のあり方を考察し学修する。			(非常勤) 中込、田村敦子	
9		小児期に発症する遺伝性疾患を有する子ども・家族への看護～倫理的視点から～ (ディスカッションとレポート作成)	小児期に発症する遺伝性疾患を有する子どもと家族への看護について倫理的視点からディスカッションを通して理解を深め、子どもと家族への支援のあり方を検討しレポート作成を通して学修する。			(非常勤) 中込、田村敦子	
10		小児看護における医療事故と倫理	小児看護における医療事故と倫理について講義と事例検討を通して理解し、再発予防と当事者支援(子ども・家族・医療者)の視点から倫理的課題への対応を考察し学修する。			(非常勤) 大海、田村敦子	
11		小児看護実践と研究における倫理	小児看護実践と研究における倫理について講義と文献講読を通して理解し、子どもの権利擁護やインフォームド・アセントを含む倫理的配慮について考察し学修する。			田村敦子	
12~13		小児看護専門看護師がかかわる倫理的課題とその解決への働きかけ(1) ～院生がかかわった事例のプレゼンと改善に向けてのディスカッション～	小児看護専門看護師がかかわる倫理的課題とその解決への働きかけについて、院生がかかわった事例のプレゼンテーションと改善に向けたディスカッションを通して整理し、実践的な対応方略を検討し学修する。			(非常勤) 佐々木、田村敦子	
14		小児看護専門看護師がかかわる倫理的課題とその解決への働きかけ(2) ～小児医療・看護を提供する組織における倫理的な課題～	小児医療・看護を提供する組織における倫理的課題について講義と事例検討を通して理解し、小児看護専門看護師の視点から組織に働きかける方略と課題解決のプロセスを考察し学修する。			(非常勤) 佐々木、田村敦子	

回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法		担当教員
15	小児看護専門看護師がかかわる倫理的課題とその解決への働きかけ(3) ～小児看護専門看護師としての倫理的課題へのかかわり方～ (ディスカッションとレポート作成)	小児看護専門看護師としての倫理的課題へのかかわり方についてディスカッションを通して理解を深め、倫理調整や意思決定支援の実践について検討しレポート作成を通して学修する。		(非常勤)佐々木、田村敦子
教科書	・松岡真里：小児看護と看護倫理-日常的な臨床場面での倫理的看護実践。へるす出版，2020． ・家永 登, 仁志田 博司他：シリーズ生命倫理学,第7巻 周産期・新生児・小児医療．丸善出版，2012．		参考書等	適宜提示する
履修条件	特になし		評価方法	プレゼンテーションを含んだ討議内容50%，課題レポート（～）50%
備考	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目（小児看護援助の方法に関する科目）（2単位）に相当する。 ・事前準備としてテキストおよびその他関係論からプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションを行い、授業中に討議した内容から再考察し、それに基づき課題レポートを作成する。			

授業科目	小児看護学演習	科目責任者	田村 敦子	単位数	2.0	必修選択別	選択必修
		学内調整者		時間数	60	受講セメスター	1,2年次 前学期
到達目標等	概要	高度看護実践での子どもと家族の包括的アセスメントに必要な、系統的フィジカルアセスメント、発達評価、痛みの評価方法と、心理・社会的アセスメントに必要な観察・インタビューの方法について臨牀的に学ぶとともに、収集した情報から包括的にヘルスアセスメントする方法について身につける。					
	到達目標	(1) 高度看護実践に必要な、子どものフィジカルアセスメントと発達評価について学ぶ。 (2) 高度看護実践に必要な、子どもと家族の状態を心理・社会的に評価するための観察法とインタビュー方法について学ぶ。 (3) 高度看護実践に必要な、子どもと家族のヘルスアセスメントについて学ぶ。 (4) 収集した情報から、子どもと家族を包括的にアセスメントする方法について思考する。					
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法			担当教員	
1		子どものヘルスアセスメントの概要	子どものヘルスアセスメントの概要について学修する。			田村敦子	
2		子どもの系統的フィジカルアセスメント：全身状態	子どもの系統的なフィジカルアセスメントの概要について講義を通して理解し、成長発達を踏まえた身体所見の観察と評価の視点を整理し学修する。			(非常勤) 熊谷	
3～4		子どもの系統的フィジカルアセスメント：全身状態	子どもの系統的フィジカルアセスメントにおける全身状態の評価について臨地講義と演習を通して理解し、成長発達を踏まえた観察項目とアセスメントの視点を整理し学修する。			(非常勤) 矢田・川中子、田村敦子	
5～6		子どもの系統的フィジカルアセスメント：頭部・感覚器系	子どもの系統的フィジカルアセスメントにおける頭部・感覚器系の評価について講義と演習を通して理解し、成長発達を踏まえた観察とアセスメントの視点を整理し学修する。			(非常勤) 熊谷・川上、田村敦子	
7～8		子どもの系統的フィジカルアセスメント：胸部	子どもの系統的フィジカルアセスメントにおける胸部の評価について講義と演習を通して理解し、呼吸・循環の観察とアセスメントの視点を整理し学修する。			(非常勤) 熊谷・川上田村敦子	
9～10		子どもの系統的フィジカルアセスメント：頭部・感覚器系	子どもの系統的フィジカルアセスメントにおける頭部・感覚器系の評価について講義と演習を通して理解し、成長発達を踏まえた観察とアセスメントの視点を整理し学修する。			(非常勤) 熊谷・川上、田村敦子	
11～12		子どもの系統的フィジカルアセスメント：筋骨格・反射	子どもの系統的フィジカルアセスメントにおける筋骨格・反射の評価について講義と演習を通して理解し、成長発達に応じた運動機能と神経学的所見の観察・判断の視点を整理し学修する。			(非常勤) 熊谷・川上、田村敦子	
13～14		発達スクリーニングの意義と方法	発達スクリーニングの意義と方法について講義と演習を通して理解し、発達評価の基本と早期支援につなげる視点を整理し学修する。			(非常勤) 矢田・黒田、田村敦子	
15～16		子どもの痛みとその評価	子どもの痛みとその評価について講義を通して理解し、痛みの評価の実際について演習を通して適切な評価手法と看護介入の視点を整理し学修する。			(非常勤) 黒田、田村敦子	
17		子どもと家族の観察とインタビューの方法	子どもと家族の観察とインタビューの方法について講義と演習を通して理解し、子どもの発達段階と家族背景を踏まえた情報収集とアセスメントの視点を整理し学修する。			田村敦子	
18～19		子ども・家族の観察とインタビュー：新生児期	子ども・家族の観察とインタビューについて新生児期の特徴を踏まえて講義と演習を通して理解し、発達段階に応じた観察と情報収集の視点を整理し学修する。			(非常勤) 川中子、田村敦子	
20～21		子ども・家族の観察とインタビュー：乳児期	子ども・家族の観察とインタビューについて乳児期の特徴を踏まえて講義と演習を通して理解し、発達段階に応じた観察と情報収集の視点を整理し学修する。			(非常勤) 川上、田村敦子	
22～23		子ども・家族の観察とインタビュー：幼児期	子ども・家族の観察とインタビューについて幼児期の特徴を踏まえて講義と演習を通して理解し、発達段階に応じた観察と情報収集の視点を整理し学修する。			(非常勤) 川上、田村敦子	
24～25		子ども・家族の観察とインタビュー：学童期・思春期	子ども・家族の観察とインタビューについて学童期・思春期の特徴を踏まえて講義と演習を通して理解し、発達段階に応じた観察と情報収集および意思確認の視点を整理し学修する。			(非常勤) 黒田、田村敦子	
26		子ども・家族の包括的なヘルスアセスメント	子ども・家族の包括的なヘルスアセスメントについて講義と演習を通して理解し、身体的・心理社会的側面を統合したアセスメントと看護判断の視点を整理し学修する。			田村敦子	
27～30		子どもと家族の包括的なヘルスアセスメントの実際	第19回～第26回でかかわった各期の子どもと家族1組から得られた情報について分析し、子どもと家族についての包括的ヘルスアセスメントとしてまとめ、その結果をプレゼンテーションしディスカッションする。			(非常勤) 川上・川中子・黒田、田村敦子	

教科書	・小野田千枝子監修：こどものフィジカル・アセスメント．金原出版，2001． ・小林 奈美著：実践力を高める家族アセスメント PartIジェノグラム・エコマップの描き方と使い方カルガリー式家族看護モデル実践へのセカンドステップ/実践力を高める家族アセスメントPart II ファシリテートのエキスパートをめざしてFASC式家族事例検討の展開から研究へカルガリー式家族看護モデル実践へのセカンドステップ.医歯薬出版，2009．など	参考書等	ケヴィン ブラウン他 著,上野昌江他訳：その他保健師・助産師による子ども虐待予防「CAREプログラム」乳幼児と親のアセスメントに対する公衆衛生学的アプローチ．明石書店，2012． 他、関係書籍・論文を広く活用する。
履修条件	とくになし	評価方法	プレゼンテーションを含んだ討議内容50％，課題レポート50％
備考	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目（小児看護対象の査定に関する科目）（2単位）に相当する。		

授業科目	小児看護学演習		科目責任者	田村 敦子	単位数	2.0	必修選択別	選択必修
			学内調整者		時間数	60	受講セメスター	1,2年次 後学期
到達目標等	概要	高度看護実践の専門的なケアを提供するために、小児期の疾患、その病態生理、検査、治療法、症状マネジメントについて学び、子ども自身と家族に必要な専門的なケアについて思考する。						
	到達目標	(1) 小児期の小児期の疾患について、高度看護実践の専門的なケアを提供するための病態生理、検査、診断、治療法（手術療法、薬物療法など）、症状マネジメントについて学ぶ。 (2) 小児期の疾患の病態・治療等を踏まえ、それぞれの疾患を持つ子どもと家族に必要な高度看護実践の専門的なケアについて思考する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		子どもの疾患の診断と治療のプロセス	子ども・家族の包括的なヘルスアセスメントについて講義と演習を通して理解し、身体的・心理社会的側面を統合したアセスメントと看護判断の視点を整理し学修する。				田村敦子	
2～5		新生児期の疾患（ハイリスク児、出生に伴う異常等）の診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント	新生児期の疾患（ハイリスク児、出生に伴う異常等）の診断・病態生理・治療のプロセスと症状マネジメントについてNICU・GCUおよび新生児室での臨地講義・臨地演習を通して理解し、観察・アセスメントに基づく看護実践の視点を整理し学修する。				(非常勤) 矢田・川中子、田村敦子	
6～9		子どもの神経疾患の診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント	子どもの神経疾患の診断・病態生理・治療のプロセスおよび症状マネジメントについて臨地講義・臨地演習を通して理解し、観察とアセスメントに基づく看護実践の視点を整理し学修する。				(非常勤) 門田・川上、田村敦子	
10～13		子どもの内分泌疾患の診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント (臨地講義・臨地演習)	子どもの内分泌疾患の診断・病態生理・治療のプロセスおよび症状マネジメントについて臨地講義・臨地演習を通して理解し、観察とアセスメントに基づく看護実践の視点を整理し学修する。				(非常勤) 田島・川上、田村敦子	
14～17		子どもの血液・造血器疾患の診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント	子どもの血液・造血器疾患の診断・病態生理・治療のプロセスおよび症状マネジメントについて臨地講義・臨地演習を通して理解し、観察とアセスメントに基づく看護実践の視点を整理し学修する。				(非常勤) 嶋田・川上、田村敦子	
18～21		手術を要する疾患とその対応 (診断、病態生理、治療のプロセス、手術前後の対応含む) (臨地講義・臨地演習)	手術を要する疾患への対応について診断・病態生理・治療のプロセスと手術前後の対応を含めて臨地講義・臨地演習を通して理解し、周術期における観察・症状マネジメント・家族支援の視点を整理し学修する。				(非常勤) 薄井・川上、田村敦子	
22～25		子どもの移植医療とその後の支援 (診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント) (臨地講義・臨地演習)	子どもの移植医療とその後の支援について診断・病態生理・治療のプロセスおよび症状マネジメントを含めて臨地講義・臨地演習を通して理解し、長期的な療養支援と家族支援の視点を整理し学修する。				(非常勤) 眞田・関、田村敦子	
26～29		子どもの精神疾患・心身医学的問題とその対応 (診断、病態生理、治療のプロセス、症状マネジメント) (臨地講義・臨地演習)	子どもの精神疾患・心身医学的問題への対応について診断・病態生理・治療のプロセスおよび症状マネジメントを含めて臨地講義・臨地演習を通して理解し、心理社会的側面を踏まえた観察と看護支援の視点を整理し学修する。				(非常勤) 柳橋・黒田、田村敦子	
30		疾患の診断、治療、症状マネジメントを前提として、疾患を持つ子どもと家族に寄り添った支援について考える (ディスカッション、レポート作成)	疾患の診断・治療・症状マネジメントを前提として疾患をもつ子どもと家族に寄り添った支援についてディスカッションを通して検討し、レポート作成を通して看護実践のあり方を整理し学修する。				(非常勤) 黒田・大海、田村敦子	
教科書	・スバブナ・サブニス 他(著)：小児症候学89 原著第2版，東京医学社，2018． ・稲毛康司編：症候から入る小児の身体診察．文光堂，2020．5 ・日本精神神経学会小児精神医療委員会，齊藤 万比古他編：臨床医のための小児精神医療入門．医学書院，2014．			参考書等	関係書籍・論文を広く活用する。			

履修条件	特になし	評価方法	プレゼンテーションを含んだ討議内容50%、課題レポート50%
備考	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目（小児の病態・治療に関する科目）（2単位）に相当する。		

授業科目	小児看護学演習	科目責任者	田村 敦子	単位数	2.0	必修選択別	選択必修
		学内調整者		時間数	60	受講セメスター	1,2年次 後学期
到達目標等	概要	高度医療の場における小児看護専門看護師の活動の実際、高度医療機関と地域の連携における小児看護の実際を見学し、そこでの事例を用いて、小児看護実践における課題および高度実践看護師としての援助について思考する。					
	到達目標	(1) 高度医療の場における小児看護専門看護師の活動の実際から、高度看護実践活動の課題について思考する。 (2) 高度医療機関周辺地域における小児医療保健福祉の現状を学び、地域における子どもへの高度看護実践と課題について思考する。					
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法			担当教員	
1～4	急性状況にある子どもと家族への支援	急性状況にある子どもと家族への支援について小児急性期病棟またはNICU・GCUまたはPICUでの臨地演習を通して理解し、急性期のアセスメントと症状マネジメントおよび家族支援の視点を整理し学修する。				(非常勤) 村山・川中子・川上・関、田村敦子	
5～8	慢性的な経過をたどる疾患をもつ子どもと家族への支援	慢性的な経過をたどる疾患をもつ子どもと家族への支援についてNICU・GCUまたは子ども外来での臨地演習を通して理解し、長期療養を支えるアセスメントと継続支援および家族支援の視点を整理し学修する。				(非常勤) 川中子・黒田、田村敦子	
9～12	精神・神経症状のある子どもと家族への支援 臨地演習：子ども精神病棟	精神・神経症状のある子どもと家族への支援について子ども精神病棟での臨地演習を通して理解し、心理社会的側面を踏まえたアセスメントと看護支援および家族支援の視点を整理し学修する。				(非常勤) 川上・黒田、田村敦子	
13～16	重症心身障害のある子どもと家族への支援	重症心身障害のある子どもと家族への支援について小児急性期病棟での臨地演習を通して理解し、状態変化の観察とケアの継続性を踏まえた看護支援および家族支援の視点を整理し学修する。				(非常勤) 川上、田村敦子	
17～18	高度医療施設での小児看護専門看護師の活動からみた高度看護実践活動の課題	高度医療施設における小児看護専門看護師の活動を踏まえ、高度看護実践活動の課題について学生のプレゼンテーションとディスカッションを通して検討し、小児看護専門看護師の役割と今後の実践の方向性について整理し学修する。				(非常勤) 川上・黒田・川中子・大海、田村敦子	
19～20	高度医療機関と地域の連携 - 現状と課題 (概要)	高度医療機関と地域の連携の現状と課題 (概要) について講義と資料検討を通して理解し、退院支援・継続支援の観点から連携のポイントを整理し学修する。				(非常勤) 黒田、田村敦子	
21～22	高度医療機関周辺地域における小児医療保健福祉療提供施設の現状と課題 (1) 周辺地域の小児医療保健施設とその連携	高度医療機関周辺地域における小児医療・保健施設の現状と課題 (1) として、周辺地域の小児医療保健施設の役割と連携について演習を通して理解し、地域資源を踏まえた連携の視点を整理し学修する。				(非常勤) 黒田、田村敦子	
23	(2) 医療的ケア児の生活と看護在宅移行の実際	医療的ケア児の生活の実際と看護における在宅移行支援について講義と事例検討を通して理解し、家族支援と多職種・多機関連携の視点から在宅移行のプロセスを整理し学修する。				(非常勤) 黒田、田村敦子	
24～25	医療的ケア児の在宅での生活の実際	医療的ケア児の在宅での生活の実際について講義と資料検討を通して理解し、安全な療養生活を支える家族支援と地域連携の視点を整理し学修する。				(非常勤) 黒田、田村敦子	
26	医療的ケア児の支援体制の実際	医療的ケア児の支援体制の実際について講義を通して理解し、地域における多職種・多機関連携による支援の仕組みと看護職の役割を整理し学修する。				(非常勤) 黒田、田村敦子	
27	エンド・オブ・ライフ期の在宅移行と支援 (講義) 子どものエンド・オブ・ライフ期とその支援	子どものエンド・オブ・ライフ期における在宅移行と支援について講義を通して理解し、症状緩和と意思決定支援および家族支援の視点から在宅でのケアのあり方を整理し学修する。				(非常勤) 黒田、田村敦子	
28	子どものエンド・オブ・ライフ期の在宅移行の実際 (臨地演習)	子どものエンド・オブ・ライフ期の在宅移行の実際について臨地演習を通して理解し、在宅移行に向けた調整と多機関連携および家族支援の視点を整理し学修する。				(非常勤) 黒田、田村敦子	
29～30	地域で展開される子どもへの高度看護実践とその課題 (プレゼン、ディスカッション、レポート作成)	地域で展開される子どもへの高度看護実践とその課題について学生のプレゼンテーションとディスカッションを通して検討し、レポート作成を通して実践の課題と今後の方向性を整理し学修する。				(非常勤) 黒田・大海、田村敦子	

教科書	・ Mary Fran Tracy他著，中村美鈴・江川幸二監訳：高度実践看護統合的アプローチ．第2版（原著第6版），へるす出版，2020．	参考書等	関係書籍・論文を広く活用する。
履修条件	とくになし	評価方法	プレゼンテーションを含んだ討議内容50%、課題レポート50%
備考	・ 本科目は、小児看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目（小児看護援助の方法に関する科目）（2単位）に相当する。		

授業科目	小児看護学演習		科目責任者	田村 敦子	単位数	2.0	必修選択別	選択必修
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次 後学期
到達目標等	概要	子どもを取り巻く社会、保健、医療、福祉、教育等について、小児保健、社会のサポートシステム、地域で生活する健康な子どもについて学んだうえで、その学習を踏まえ、主に地域で生活する子どもの健康問題の実例を通して制度・政策等の理解を深めるとともに、小児看護専門看護師の役割と課題を考察する。						
	到達目標	(1) 健康な子どもの健康を守る社会のシステムについて理解する。 (2) 子どもを取り巻く社会のサポートシステムを理解する。 (3) 地域で生活する健康な子どもに対する看護支援について理解する。 (4) 地域で生活する疾患を持つ子どもの支援について理解する。 (5) 子どもを取り巻く社会のサポートシステムの中での高度実践看護職の役割について思考する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		小児保健学（概論）	小児保健学の概論として子どもの健康を取り巻く現状と課題（保健・医療・福祉・教育の連携を含む）について学修する。				（非常勤）西村、田村敦子	
2		小児保健のねらいと意義（子どもの健康、小児保健の歴史と変遷、子どもの健康の維持・増進）	子どもの健康を基盤に小児保健のねらいと意義（歴史と変遷、健康の維持・増進）について講義と文献講読を通して理解し、現代の小児保健の課題と看護の役割を考察し学修する。				（非常勤）西村、田村敦子	
3～4		乳幼児健康診査の概要と最近の動向	乳幼児健康診査の目的・内容・体制の概要と最近の動向について講義と資料検討を通して理解し、健診の場におけるアセスメントと支援の視点を整理し学修する。				田村敦子	
5～6		学校保健の概要と最近の動向	学校保健の目的・体制・活動の概要と最近の動向について講義と資料検討を通して理解し、学校を基盤とした健康支援と多機関連携の視点を整理し学修する。				田村敦子	
7～8		予防接種の概要と最近の動向	予防接種の目的・種類・実施体制と最近の動向について講義と資料検討を通して理解し、ワクチンの安全性と保護者支援を含む看護の役割を考察し学修する。				田村敦子	
9～10		子どもを取り巻く社会のサポートシステム	子どもを取り巻く社会のサポートシステムについて、子どもを支える主な法律・制度・政策および保健医療・教育・福祉分野における支援体制について講義と資料検討を通して理解し、小児看護における多機関連携の視点を整理し学修する。				田村敦子	
11～12		地域で生活する健康な子どもに対する看護支援	地域で生活する健康な子どもに対する看護支援について理解し、成長発達を支える健康増進と家族支援の視点を整理し学修する。地域で生活する健康な子どもに対する看護支援の実例：保育現場あるいは学校現場での看護職のかかわり （施設見学（幼保連携型こども園第2愛泉幼稚園あるいは国分寺小学校）、プレゼン資料準備含む）				田村敦子	
13		地域で生活する健康な子どもに対する看護支援の課題～高度実践看護職の役割（学生のプレゼンテーションとディスカッション、課題レポートの作成）	地域で生活する健康な子どもに対する看護支援の課題について高度実践看護職の役割の観点から学生のプレゼンテーションとディスカッションを通して検討し、課題レポートの作成を通して学修する。				田村敦子	
14		主に地域で生活する子どもの健康問題とその支援体制 アレルギー医療体制と看護職の役割	地域で生活する子どもの健康問題としてアレルギー疾患に対する医療体制と看護職の役割について講義と資料検討を通して理解し、地域における継続的支援の視点を整理し学修する。				（非常勤）玉村、田村敦子	
15～17		栃木県におけるアレルギー医療体制とその中での看護の役割の実例 ～アレルギー専門職（小児アレルギーエドゥケーター；PAE）の働きとその育成含む～	栃木県におけるアレルギー医療体制（拠点病院・専門医療機関・一般病院・保育／学校での対応）と各場面での看護職の役割、ならびにアレルギー専門職（小児アレルギーエドゥケーター；PAE）の実際と育成について臨地での見学を通して理解し、プレゼン資料の作成を通して学修する。				（非常勤）田野井、田村敦子	

回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
18	栃木県におけるアレルギー支援体制の現状と課題～高度実践看護職の役割(学生のプレゼンテーションとディスカッション、レポートの作成)	栃木県におけるアレルギー支援体制の現状と課題について高度実践看護職の役割の視点から学生のプレゼンテーションとディスカッションを通して検討し、レポート作成を通して学修する。	(非常勤) 田野井、田村敦子
19	主に地域で生活する子どもの健康問題とその支援体制 児童虐待の予防とその対応 児童虐待の予防と早期発見、支援体制の概要	児童虐待の予防と対応について、予防と早期発見の視点および支援体制の概要を講義と資料検討を通して理解し、地域における多機関連携と看護職の役割を整理し学修する。	(非常勤) 大海、田村敦子
20～22	生体肝移植における看護職の支援	生体肝移植前における看護職の支援について子ども外来での臨地見学と臨地講義を通して理解し、意思決定支援と家族支援の視点を整理し学修する。 生体肝移植後における看護職の支援についてPICUおよび小児外科系病棟での臨地見学と臨地講義を通して理解し、急性期から回復期のケアと家族支援の視点を整理し学修する。生体肝移植前後からその後の長期的支援における看護職の支援について子ども外来での臨地見学と臨地講義を通して理解し、継続支援とセルフマネジメント支援の視点を整理し学修する。	田村敦子
23	子どもの移植医療における高度実践看護職の役割(ディスカッション)	子どもの移植医療における高度実践看護職の役割についてディスカッションを通して理解を深め、多職種連携や意思決定支援を含む実践上の課題と対応方略を検討し学修する。	田村敦子、(非常勤) 大海
24	児童虐待の予防とその対応 児童虐待の予防と早期発見、支援体制の概要	児童虐待の予防と対応について、予防と早期発見の視点および支援体制の概要を講義と資料検討を通して理解し、地域における連携と看護職の役割を整理し学修する。	(非常勤) 大海、田村敦子
25	医療機関での「虐待を受けている子ども」の早期発見とその後の対応 (臨地(栃木県県南児童相談所)での見学、プレゼン資料の作成)	医療機関における「虐待を受けている子ども」の早期発見とその後の対応について臨地での見学を通して理解し、関係機関との連携や支援の流れを整理してプレゼン資料の作成を通して学修する。	(非常勤) 大海、田村敦子
26～28	地域での児童虐待の予防、早期発見、支援の実践	地域における児童虐待の予防・早期発見・支援の実践について臨地での見学を通して理解し、多機関連携の支援の流れを整理してプレゼン資料の作成を通して学修する。	田村敦子
29	栃木県における児童虐待の支援体制の現状と高度実践看護職の役割 (学生のプレゼンテーションとディスカッション、レポートの作成)	栃木県における児童虐待の支援体制の現状と課題について高度実践看護職の役割の視点から学生のプレゼンテーションとディスカッションを通して検討し、レポート作成を通して学修する。	(非常勤) 大海、田村敦子
30	子どもを取り巻く社会のサポートシステムの中での高度実践看護職の役割 (学生のプレゼンテーションとディスカッション、レポートの作成)	子どもを取り巻く社会のサポートシステムの中での高度実践看護職の役割について学生のプレゼンテーションとディスカッションを通して理解を深め、多機関連携における看護職の役割を検討しレポート作成を通して学修する。	(非常勤) 大海、田村敦子
教科書	・Mary Fran Tracy他著、中村美鈴・江川幸二監訳：高度実践看護統合的アプローチ・第2版(原著第6版)、へるす出版、2020。		参考書等 関係書籍・論文を広く活用する。
履修条件	特になし		評価方法 プレゼンテーションを含んだ討議内容50%、レポート50%
備考	・本科目は、小児看護専門看護師教育課程(38単位)の専攻分野共通科目(小児看護援助の方法に関する科目)(2単位)に相当する。		



専門科目

実践看護学領域 母性看護学



授業科目	母性看護学演習		科目責任者	角川 志穂	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1年次後学期
到達目標等	概要	母子と家族の健康の維持・促進および正常から逸脱した状態へのケアを学び、症状のアセスメントに基づき、状況・診断・治療に応じた支援を考察する。あわせて、プライマリーケア、院内外の助産・母子支援体制や病院から地域への連携を理解し、高度看護実践に必要な包括的アセスメント能力を養う。						
	到達目標	1.母子とその家族の健康の維持・増進、正常から逸脱した対象者へのケアの実際について学び、症状のアセスメントに基づき、ケースの状況・診断・治療に応じた支援について考察する。 2.周産期の母子に対する基礎的なフィジカルアセスメント能力を養う。 3.プライマリーケア、院内における助産システム、地域での母子とその家族への支援方法、病院から地域に母子と家族をつなぐシステム等を理解する。 4.上記を総合して、高度看護実践の基盤となる母子とその家族への包括的なアセスメントに必要な能力を養う。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1・2		周産期における母子と家族の包括的アセスメント					角川志穂	
3～7		ハイリスク母子と家族に対する妊娠中から育児期までの調整の実際					(非常勤)長坂	
8・9		二次医療機関が担う地域での母子支援とその調整					(非常勤)立木	
10・11		三次医療機関における他部門・多職種との連携の実際					(非常勤)佐藤、角川志穂	
12・13		周産期におけるプライマリーケアの立ち上げと看護職への教育					(非常勤)小田、角川志穂	
14～18		助産師外来における包括的アセスメントの実際(問診、フィジカルアセスメントを含む)					(非常勤)小嶋	
19・20		助産師外来と院内助産を活用した妊娠期から出産期にかけてのプライマリーケアの実際(ハイリスク妊産褥婦を含む)					(非常勤)小嶋	
21～24		地域における訪問を活用した母子と家族のアセスメントと支援 - 新生児訪問等の臨床現場における演習を通して体験的に学ぶ -					(非常勤)藤川、角川志穂	
25・26		地域における小集団を活用した母子や女性への支援方法					角川志穂	
27・28		病院から地域に母子と家族をつなぐシステムの実例 - 「母子のための地域包括ケア病棟」推進に向けた手引きの理解 -					(非常勤)立木、川野	
29・30		自施設における組織・システム改善に向けた課題と対応策の検討					川野	
教科書							参考書等	専門誌からの論文を中心とし、必要時提示する。

履修条件	なし	評価方法	参加・討議内容（プレゼン含む）50% 課題レポート50% 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野専門科目（2単位）に相当する。事前準備として母性看護専門看護師に必要な6つの機能について学習をした上で授業に臨むこと。事後課題については、演習での学びから母性看護専門看護師としての在り方や病院や診療所、地域との連携について課題レポートを作成し、探求すること。予習復習時間に要する時間は24時間以上。本科目では、アクティブ・ラーニングを活用して行う。		

授業科目	母性看護学演習	科目責任者	川野 亜津子	単位数	2.0	必修選択別	選択
		学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1年次 後学期
到達目標等	概要	心理・社会的ハイリスク女性へのスクリーニング、看護介入、組織的支援、多職種協働、さらに家族を含む倫理的課題を検討し、女性医療の教育的役割を理解することで、女性の健康を支えるヘルスケアシステムを多面的に捉え、今後の日本におけるウィメンズヘルスのあり方を探求する。					
	到達目標	(1) 女性の健康問題及び心理的問題・精神疾患の理解と看護介入について思考できる。 (2) 女性医療における教育的機能の発揮、および組織的活動、多職種連携のための能力を養うことができる。 (3) 社会的ハイリスクにある女性と家族の理解と支援、及び倫理的課題について思考できる。					
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法			担当教員	
1～5		女性の健康支援に関わる最新情報の探索	女性の健康支援に関わる最新情報の探索			川野亜津子	
6～8		DV／虐待のハイリスク状態にある女性と家族のスクリーニングとその支援	DV／虐待のハイリスク状態にある女性と家族のスクリーニングとその支援			(非常勤) 家吉、川野亜津子	
9～10		ヘルスケアチームにおける多職種連携の実践	ヘルスケアチームにおける多職種連携の実践			(非常勤) 臼井	
11～12		女性医療における医療システムの充実・発展：組織的活動における母性看護専門看護師の役割	女性医療における医療システムの充実・発展：組織的活動における母性看護専門看護師の役割			川野亜津子、(非常勤) 小嶋・立木	
13～14		女性医療における医療システムの充実・発展：多職種協働における母性看護専門看護師の役割	女性医療における医療システムの充実・発展：多職種協働における母性看護専門看護師の役割			川野亜津子、(非常勤) 小嶋・立木	
15～16		女性医療・ウィメンズヘルスにおける母性専門看護師としての教育的機能：女性医療における母性専門看護師の役割	女性医療・ウィメンズヘルスにおける母性専門看護師としての教育的機能：女性医療における母性専門看護師の役割			川野亜津子、(非常勤) 小嶋・佐藤	
17～18		女性医療・ウィメンズヘルスにおける母性専門看護師としての教育的機能：地域に生活する女性たちの健康支援における母性看護専門看護師の役割	女性医療・ウィメンズヘルスにおける母性専門看護師としての教育的機能：地域に生活する女性たちの健康支援における母性看護専門看護師の役割			川野亜津子、(非常勤) 小嶋・佐藤	
19～22		高度先進医療を受ける女性と家族の理解および支援	高度先進医療を受ける女性と家族の理解および支援			川野亜津子	
23		心理的問題・精神疾患をもつ女性の支援：思春期にある女性への支援	心理的問題・精神疾患をもつ女性の支援：思春期にある女性への支援			(非常勤) 綿谷、川野亜津子	
24		心理的問題・精神疾患をもつ女性の支援：性成熟期にある女性への支援	心理的問題・精神疾患をもつ女性の支援：性成熟期にある女性への支援			(非常勤) 綿谷、川野亜津子	
25		心理的問題・精神疾患をもつ女性の支援：更年期にある女性への支援	心理的問題・精神疾患をもつ女性の支援：更年期にある女性への支援			(非常勤) 綿谷、川野亜津子	
26		Women's Health & Family NPIによる女性の健康支援に関する活動の実践：思春期にある女性への支援	Women's Health & Family NPIによる女性の健康支援に関する活動の実践：思春期にある女性への支援			(非常勤) 儀宝	
27		Women's Health & Family NPIによる女性の健康支援に関する活動の実践：性成熟期にある女性への支援	Women's Health & Family NPIによる女性の健康支援に関する活動の実践：性成熟期にある女性への支援			(非常勤) 儀宝	
28		Women's Health & Family NPIによる女性の健康支援に関する活動の実践：更年期にある女性への支援	Women's Health & Family NPIによる女性の健康支援に関する活動の実践：更年期にある女性への支援			(非常勤) 儀宝	

回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法		担当教員
29～30		社会的ハイリスクにある女性と家族における倫理的課題の検討	社会的ハイリスクにある女性と家族における倫理的課題の検討		川野亜津子・角川
教科書	指定しない		参考書等	・伏木信次：生命倫理と医療倫理（第4版）.kinpodo, 2020. ・小川たまか他著：災害と性暴力. 日本看護協会出版会, 2023. 他、専門誌からの論文を中心とし、必要時提示する。	
履修条件	なし		評価方法	参加・討議内容（プレゼン含む）70％，課題レポート30％ 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する。	
備考	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野専門科目（2単位）に相当する。事前準備は授業各回の内容に沿って、基本的知識を学んでくること。事後の課題は毎回提示する。予習復習に要する時間は46時間以上を必要とする。				

授業科目	母性看護学演習（令和6年度以降の入学生対象）		科目責任者	角川 志穂	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次後学期
到達目標等	概要	周産期における正常経過から逸脱した対象者について、産婦人科学的視点から診断・治療の考え方を理解する。医師や多職種との協働を踏まえ、状況に応じた看護支援を検討するとともに、最新エビデンスに基づく高度な看護介入の実践について思考する。						
	到達目標	1.周産期において正常経過から逸脱した対象者についての産婦人科学からみた診断・治療の考え方について理解する。 2.医師および他職種との協働を踏まえ、ケースの状況・診断・治療に応じた看護的な支援について思考する。 3.周産期における正常経過から逸脱した対象者のケアについて現時点でのエビデンスを確認し、根拠に基づいた高度な看護介入の実践における産科医師との協働について思考する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1・2		自治医科大学総合母子医療センターおよびさいたま医療センターにおける各県内での役割と機能の実際 - 多機関協働の実際 -					(非常勤) 桑田、角川志穂	
3・4		三次医療機関および二次医療機関における正常から逸脱した妊産婦への対応 - 医師および他職種との協働を踏まえて -					(非常勤) 桑田、角川志穂	
5・6		超音波診断の手法と診断の実際 - 超音波外来での実際 -					(非常勤) 高橋、角川志穂	
7・8		胎児異常が指摘された妊産婦への対応 - 事例検討 -					(非常勤) 高橋、角川志穂	
9・10		切迫流産の診断・治療の実際					(非常勤) 小古山、角川志穂	
11・12		切迫流産を繰り返す妊産婦への対応 - 事例検討 -					(非常勤) 小古山、角川志穂	
13・14		妊娠高血圧症候群の診断・治療の実際 - 妊娠高血圧外来での実際 -					(非常勤) 鈴木、角川志穂	
15・16		妊娠高血圧症候群と診断された妊産婦への対応 - 事例検討 -					(非常勤) 鈴木、角川志穂	
17・18		糖代謝異常のある妊産婦の診断・治療の実際					角川志穂	
19・20		糖代謝異常のある妊産婦への対応 - 内分泌代謝外来での実際 -					角川志穂	
21・22		糖代謝異常のある妊産婦のアセスメントとケア - 事例検討 -					(非常勤) 成田	
23・24		糖代謝異常のある褥婦のアセスメントとケア - 事例検討 -					(非常勤) 成田	
25・26		不育症と診断された女性への対応 - 抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の診療ガイドラインの活用と他職種協働の実際 -					角川志穂・川野	
27・28		メンタルヘルスに課題のある妊産婦への対応 - 周産期メンタルヘルスコンセンサスガイドの活用と他職種協働の実際 -					角川志穂・川野	

回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法		担当教員
29 30	DV疑いのある妊産婦への対応 - EBMの手法による周産期ドメスティック・バイオレンス支援ガイドラインの活用と他職種協働の実際 - 心疾患のある妊産婦への対応 - 心疾患患者の妊娠・出産の適応、管理に関するガイドラインの活用と他職種協働の実際 -			角川志穂・川野 角川志穂・川野
教科書			参考書等	適宜提示する。
履修条件	なし		評価方法	参加・討議内容（プレゼン含む）70% 課題レポート30% 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野専門科目（2単位）に相当する。事前準備として、各担当教員より提示された事例について情報収集、アセスメントを行い看護や治療の方向性についてまとめた上で演習に臨むこと。事後課題としては、演習での学びをもとに事前に立案した看護や治療について見直し、課題レポートを作成すること。予習復習に要する時間は24時間以上。本科目はアクティブラーニングを活用して行う。			



専門科目

実践看護学領域
精神看護学



授業科目	精神看護学演習		科目責任者	永井 優子	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	60	受講セメスター	2年次 前学期
到達目標等	概要	コンサルテーション・リエゾン精神看護の目的と機能を理解し、一般科の患者における精神・身体状況の相関とホリスティックなアプローチについて理解し、看護組織におけるリエゾン活動について検討する。						
	到達目標	最新のリエゾン精神看護に関する理論と技術について学修し、高度看護実践上の課題を検討する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1～2		医療におけるコンサルテーション・リエゾン活動の歴史と展望					(非常勤) 永井優子	
3～4		リエゾン精神看護の目的と機能、ホリスティック・アプローチ					(非常勤) 永井優子	
5～7		一般科におけるメンタルヘルス上の問題のある患者とその家族のアセスメント <不安、抑うつ、せん妄>					(非常勤) 永井優子	
8～9		高い不安状態の患者とその家族の理解とケア					(非常勤) 永井優子	
10～11		抑うつ状態の患者とその家族の理解とケア					(非常勤) 永井優子	
12		せん妄状態の患者とその家族の理解とケア					(非常勤) 永井優子	
13～14		攻撃性の高い患者とその家族の理解とケア					(非常勤) 永井優子	
15～16		慢性疾患の患者とその家族の理解とケア					(非常勤) 永井優子	
17		がん患者とその家族のケア-緩和ケアチームと精神腫瘍学の立場から					(非常勤) 岡島	
18～19		精神科コンサルテーションチームにおける高度看護実践					(非常勤) 永井優子	
20～21		看護職のメンタルヘルス支援					(非常勤) 永井優子	
22～23		組織管理・変革者としてのリエゾン精神看護					(非常勤) 永井優子	
24～26		リエゾン精神看護活動の実際	(非常勤) 永井優子					
27～30		リエゾン精神看護 事例演習	学生が関心のあるリエゾン精神看護領域の課題を設定し、事例へのコンサルテーションプランを作成する。				(非常勤) 永井優子	
教科書	「野末聖香編：リエゾン精神看護、患者ケアとナース支援のために」、医歯薬出版株式会社 「Ed: Advanced Practice Psychiatric Nursing, 3rd Ed」、K.R.Tusaie, et al、Springer、2023 「Ed: Psychiatric and Mental Health Nursing in the UK」K.Evans, et al、Elsevier、2020			参考書等				
履修条件	なし			評価方法	授業における討議内容(70%)および第15回プレゼンテーション(30%) 【評価のフィードバック方法】 評価を記載したレポートを返却する。			

備考	本科目は精神看護専門看護師教育課程の専攻分野専門科目「リエゾン精神看護」(2単位)に相当する。事前に看護に関する自己の実践上の課題について検討し、事例演習の課題を設定する。事例演習終了後に課題の達成状況について評価して、実習および研究活動の課題を明確化する。予習復習に要する時間は24時間以上
----	--



専門科目

実践看護学領域 がん看護学



授業科目	がん看護学講義		科目責任者	内堀 真弓	単位数	2.0	必修選択別	必修
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次 前学期
到達目標等	概要	がんの分子生物学、病因（遺伝学を含む）と疫学、予防と検診、診断および治療法について最新の知識を得て、がん患者・家族に対する看護実践への適用方法を学習する。						
	到達目標	がんの分子生物学、病因と疫学、予防と検診、診断および治療法について最新の知識を得て、がん患者・家族に対する看護実践への適用方法を説明する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		がん看護学総論	プレゼンテーションとディスカッション				内堀 真弓	
2		がんの疫学と予防					内堀 真弓	
3		がんと遺伝					内堀 真弓	
4		発がんと浸潤・転移の分子生物学					(非常勤) 高橋	
5		がんの病理診断					(非常勤) 福嶋	
6		がん診断期にある患者・家族に対する看護実践の理解					内堀 真弓	
7		腫瘍内科学					(非常勤) 山口	
8		放射線腫瘍学					(非常勤) 柴山	
9		腫瘍外科学					(非常勤) 山口	
10		造血幹細胞移植					(非常勤) 藤原	
11		がん領域の臨床試験とがんゲノム医療					内堀 真弓	
12		有害事象に対する支持療法					(非常勤) 山口	
13		オンコロジー・エマージェンシー					(非常勤) 山口	
14		講義内容についての理解度確認テスト					内堀 真弓	
15		がん治療に伴う機能・形態障害および有害事象が患者・家族に与える影響と求められる看護実践	プレゼンテーションとディスカッション				内堀 真弓	
教科書	指定しない			参考書等	指定しない			
履修条件	なし			評価方法	1. 理解度確認テスト（40％） 2. プレゼンテーション内容（50％） 3. ディスカッションを含めた授業への参加態度（10％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			

備 考	本科目は、がん看護専門看護師教育課程の専攻分野共通科目「がん看護に関する病態生理学」（2単位）に相当する。講義の予習および復習を十分に行うこと。第2～5回、第7～13回の授業内容については、第14回に理解度確認テストを実施する。で誤答があった問題は、正答となるまで取り組む。第6回と第15回のプレゼンテーションは、アクティブ・ラーニングを活用して、事前にプレゼンテーション資料を作成するとともに、ディスカッションによって理解が深まった点は事後にプレゼンテーション資料に加筆し、最終成果物として提出すること。予習復習に46時間以上を必要とする。 特別講義は本科目の一環として開講される。
--------	--

授業科目	がん看護学講義		科目責任者	内堀 真弓	単位数	2.0	必修選択別	必修
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次 前学期
到達目標等	概要	がんの診断からエンドオブライフの時期（家族に対しては患者との死別後の時期を含む）に至るまで、患者・家族へ専門的な看護を实践するうえで基盤となる主要な概念や理論を学び、それぞれの概念や理論を用いている既報の論文を抄読する。さらに、自身の実践事例について概念や理論を用いて分析し実践への活用法を学習する。						
	到達目標	がんの診断からエンドオブライフの時期に至るまで、患者・家族へ専門的な看護を实践するうえで基盤となる主要な概念や理論を学び、実践への活用方法を説明する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		ガイダンス がん看護領域における実践・研究・教育等の変遷と動向	がん医療とがん看護の現状と課題、専門看護師の歴史と実践、役割拡大について研究結果や文献から理解する				内堀真弓	
2		専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解（1）	ストレスの概念およびストレス・コーピング理論を学び、それらを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する				内堀真弓	
3		専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法（1）	自身の実践事例についてストレス、ストレス・コーピング理論を用いて分析し、その特徴を理解し、理論の実践への活用方法について学習する				内堀真弓	
4		専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解（2）	危機理論を学び、それを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する				内堀真弓	
5		専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法（2）	自身の実践事例について危機理論を用いて分析し、その特徴を理解し、理論の実践への活用方法について学習する				内堀真弓	
6		専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解（3）	グリーフおよび喪失の概念を学び、それらを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する				内堀真弓	
7		専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法（3）	自身の実践事例についてグリーフおよび喪失の概念を用いて分析し、その特徴を理解し、概念の実践への活用方法について学習する				内堀真弓	
8		専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解（4）	ヘルスプロモーションの概念や健康行動についての理論を学び、それらを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する				内堀真弓	
9		専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法（4）	自身の実践事例についてヘルスプロモーションや健康行動についての理論を用いて分析し、その特徴を理解し、概念や理論の実践への活用方法について学習する				内堀真弓	
10		専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解（5）	エンパワメントやレジリエンスの概念を学び、それらを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する				内堀真弓	
11		専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法（5）	自身の実践事例についてエンパワメント、レジリエンスの概念を用いて分析し、その特徴を理解し、概念の実践への活用方法について学習する				内堀真弓	
12		専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解（6）	セルフケアの概念やセルフケア理論を学び、それらを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する				内堀真弓	
13		専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法（6）	自身の実践事例についてセルフケアの概念やセルフケア理論を用いて分析し、その特徴を理解し、概念や理論の実践への活用方法について学習する				内堀真弓	
14		専門的ながん看護実践のための基盤となる概念・理論の理解（7）	ケアリングの概念を学び、それを研究として用いた論文の抄読により、がん看護実践への適用の実際について理解する				内堀真弓	
15		専門的ながん看護実践のための概念・理論の活用方法（7）	自身の実践事例についてケアリングの概念を用いて分析し、その特徴を理解し、概念の実践への活用方法について学習する				内堀真弓	

教科書	指定しない。授業毎に必要なに応じて提示する。	参考書等	指定しない。授業毎に必要なに応じて提示する。
履修条件	なし	評価方法	1．プレゼンテーション内容（５０％） 2．ディスカッションを含めた授業への参加態度（５０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目はがん看護専門看護師専攻分野共通科目「がん看護に関する理論」（２単位）に相当する。事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。予習復習による時間は４６時間以上を必要とする。発表や討議を通じて学生の能動的学修を促すアクティブラーニング型の授業とする。		

授業科目	がん看護学演習		科目責任者	内堀 真弓	単位数	2.0	必修選択別	必修
			学内調整者		時間数	60	受講セメスター	1,2年次 前学期
到達目標等	概要	がんの診断からエンドオブライフの時期（家族に対しては患者との死別後の時期を含む）に至るまで、患者・家族に最適な緩和ケアを提供するための高度実践看護職に求められる役割・機能について、文献抄読ならびに実際の活動を知ることを通して理解を深め、プレゼンテーションやディスカッションの機会に説明する。						
	到達目標	がんの診断からエンドオブライフの時期に至るまで、患者・家族に最適な緩和ケアを提供するための高度実践看護職に求められる役割・機能を説明する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		ガイダンス、緩和ケア概論					内堀 真弓	
2		がん看護専門看護師の実践機能	テキスト第7章『患者の家族ヘケアリング』から優れた臨床実践と考えた事例を選択し、看護実践の構造を説明する資料を作成し、プレゼンテーションを行う。				内堀 真弓	
3		がん看護専門看護師の実践機能	プレゼンテーションに対するディスカッションを行った後、新たに気づいた事柄をレポートにまとめ提出する。				内堀 真弓	
4～7		高度ながん看護：実践機能の実際	がん看護専門看護師の実践機能の実際についての臨地講義を受け（第4～5回）、活動を見学する（第6～7回）。				（非常勤）飯塚	
8		高度ながん看護：実践機能の実際	見学内容に基づきがん看護専門看護師の実践機能を再考してプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。				内堀 真弓	
9		がん看護専門看護師の相談・調整機能	テキスト第10章『論理的に述べること：臨床評価の共有とチームワークの改善』から優れた臨床実践と考えた事例を選択し、看護実践の構造を説明する資料を作成し、プレゼンテーションを行う。				内堀 真弓	
10		がん看護専門看護師の相談・調整機能	プレゼンテーションに対するディスカッションを行った後、新たに気づいた事柄をレポートにまとめ提出する。				内堀 真弓	
11～14		高度ながん看護：相談・調整機能の実際	がん看護専門看護師の相談・調整機能の実際についての臨地講義を受け（第11～12回）、活動を見学する（第13～14回）。				（非常勤）平野	
15		高度ながん看護：相談・調整機能の実際	見学内容に基づきがん看護専門看護師の相談・調整機能を再考してプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。				内堀 真弓	
16		がん看護専門看護師の倫理調整機能	テキスト第9章『死と向き合うこと：終末期ケアと意思決定』から優れた臨床実践と考えた事例を選択し、看護実践の構造を説明する資料を作成し、プレゼンテーションを行う。				内堀 真弓	
17		がん看護専門看護師の倫理調整機能	プレゼンテーションに対するディスカッションを行った後、新たに気づいた事柄をレポートにまとめ提出する。				内堀 真弓	
18～21		高度ながん看護：倫理的な問題・葛藤と調整の実際	がん看護専門看護師の倫理調整機能の実際についての臨地講義を受け（第18～19回）、活動を見学する（第20～21回）。				（非常勤）藤原	
22		高度ながん看護：倫理的な問題・葛藤と調整の実際	見学内容に基づきがん看護専門看護師の倫理調整機能を再考してプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。				内堀 真弓	
23		がん看護専門看護師の教育機能	テキスト第13章『教育方法と提言』から優れた臨床実践と考えた事例を選択し、看護実践の構造を説明する資料を作成し、プレゼンテーションを行う。				内堀 真弓	
24		がん看護専門看護師の教育機能	プレゼンテーションに対するディスカッションを行った後、新たに気づいた事柄をレポートにまとめ提出する。				内堀 真弓	
25～26		高度ながん看護：教育機能の実際	高度実践看護職の実践機能の実際についての講義				内堀 真弓	
27		高度ながん看護：教育機能の実際	講義に基づいてがん看護専門看護師の教育機能を再考してプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。				内堀 真弓	
28～29		がん看護専門看護師の研究機能	リサーチクエスションの設定、研究計画策定から実装までのプロセスについての講義				内堀 真弓	
30		がん看護専門看護師の研究機能	自らの研究テーマに関するプレゼンテーションとディスカッション				内堀 真弓	

教科書	「ベナー 看護ケアの臨床知 - 行動しつつ考えること 第2版」P. ベナーほか（井上智子監訳）、医学書院、2012年	参考書等	指定しない
履修条件	なし	評価方法	1. プレゼンテーション内容（90％） 2. 授業への参加態度（10％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」（2単位）に相当する。 プレゼンテーションの準備やプレゼンテーション後の再考について、十分に組み込むこと。アクティブ・ラーニングを活用する。予習復習に要する時間は24時間以上である。		

授業科目	がん看護学演習		科目責任者	内堀 真弓	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	60	受講セメスター	1,2年次 前学期
到達目標等	概要	講義、テーマについてのプレゼンテーションおよびディスカッション、高度な緩和ケア実践の見学を通して、がん患者の苦痛症状を包括的にアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を説明する。						
	到達目標	がん患者の苦痛症状を包括的にアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を説明する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		ガイダンス					内堀 真弓	
2		包括的アセスメント総論					内堀 真弓	
3		がん性疼痛のアセスメントと症状緩和のためのエビデンス					内堀 真弓	
4		がん性疼痛のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法	ペーパーバイシエントのがん性疼痛をアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を発表する（プレゼンテーション）。				内堀 真弓	
5		がん性疼痛のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法	発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに症状緩和を図る看護実践方法について理解を深める。				内堀 真弓	
6		倦怠感のアセスメントと症状緩和のためのエビデンス					内堀 真弓	
7		倦怠感のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法	ペーパーバイシエントの倦怠感をアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を発表する（プレゼンテーション）。				内堀 真弓	
8		倦怠感のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法	発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに症状緩和を図る看護実践方法について理解を深める。				内堀 真弓	
9		消化器症状のアセスメントと症状緩和のためのエビデンス					内堀 真弓	
10		消化器症状のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法	ペーパーバイシエントの消化器症状をアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を発表する（プレゼンテーション）。				内堀 真弓	
11		消化器症状のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法	発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに症状緩和を図る看護実践方法について理解を深める。				内堀 真弓	
12		呼吸器症状のアセスメントと症状緩和のためのエビデンス					内堀 真弓	
13		呼吸器症状のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法	ペーパーバイシエントの呼吸器症状をアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を発表する（プレゼンテーション）。				内堀 真弓	
14		呼吸器症状のアセスメントと症状緩和を図る看護実践方法	発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに症状緩和を図る看護実践方法について理解を深める。				内堀 真弓	
15		精神的・心理的苦痛のアセスメントと苦痛緩和のためのエビデンス					内堀 真弓	
16		精神・心理的苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法	ペーパーバイシエントの精神・心理的苦痛をアセスメントし、苦痛緩和を図る看護実践方法を発表する（プレゼンテーション）。				内堀 真弓	
17		精神・心理的苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法	発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに苦痛緩和を図る看護実践方法について理解を深める。				内堀 真弓	

回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
18	社会的苦痛およびスピリチュアルな苦痛のアセスメントと苦痛緩和のためのエビデンス		内堀 真弓
19	社会的苦痛およびスピリチュアルな苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法	ペーパーバイシエントの社会的苦痛およびスピリチュアルな苦痛をアセスメントし、苦痛緩和を図る看護実践方法を発表する（プレゼンテーション）。	内堀 真弓
20	社会的苦痛およびスピリチュアルな苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法	発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに苦痛緩和を図る看護実践方法について理解を深める。	内堀 真弓
21	臨死期の苦痛のアセスメントと苦痛緩和のためのエビデンス		内堀 真弓
22	臨死期における患者・家族の苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法	ペーパーバイシエント・家族の苦痛をアセスメントし、苦痛緩和を図る看護実践方法を発表する（プレゼンテーション）。	内堀 真弓
23	臨死期における患者・家族の苦痛のアセスメントと苦痛緩和を図る看護実践方法	発表内容に対するディスカッションを通して、アセスメントならびに苦痛緩和を図る看護実践方法について理解を深める。	内堀 真弓
24～27	高度な緩和ケア実践の実際	がん看護専門看護師による高度な緩和ケアの実際について臨地講義を受け（第24～25回）、活動を見学する（第26～27回）	（非常勤）岩永
28	高度な緩和ケア実践の実際	見学内容に基づき、高度な緩和ケア実践について考察し、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う（第28回）。	内堀 真弓
29	まとめ	がん患者の苦痛症状のアセスメントならびに症状緩和を図る看護実践方法について、本科目で新たに理解したことをプレゼンテーションする。	内堀 真弓
30	まとめ	プレゼンテーションに対するディスカッションを通して、がん患者・家族に対する緩和ケアにおける今後の看護実践課題を説明する。	内堀 真弓
教科書	指定しない	参考書等	指定しない
履修条件	なし	評価方法	1. プレゼンテーション内容（90%） 2. 授業への参加態度（討議内容）（10%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」（2単位）に相当する。事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。アクティブ・ラーニングを活用する。予習復習に要する時間は24時間以上である。		

授業科目	がん看護学演習		科目責任者	内堀 真弓	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	60	受講セメスター	1,2年次 後学期
到達目標等	概要	がんの診断からエンドオブライフの時期に至るまで、患者・家族の療養過程で生じる倫理的課題ならびに看護システム上の課題を理解し、訪問看護や在宅看取り、死別の家族に対する看護の場の見学、プレゼンテーションならびにディスカッションを通して課題解決のための方略を探究する。						
	到達目標	がんの診断からエンドオブライフの時期に至るまで、患者・家族の療養過程で生じる倫理的課題ならびに看護システム上の課題を理解し、課題解決のための方略を探究する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		ガイダンス がん患者と家族の療養過程で生じる倫理的課題：概論					内堀 真弓	
2		がん患者と家族に対する緩和ケア提供に伴う看護システムの現状と課題：概論					内堀 真弓	
3		がん患者・家族が治療や療養の場を選択するための意思決定支援(1)	意思決定支援に関するエビデンスの理解				内堀 真弓	
4		がん患者・家族が治療や療養の場を選択するための意思決定支援(2)	意思決定支援の実際と課題				内堀 真弓	
5		アドバンス・ケア・プランニング(1)	アドバンス・ケア・プランニングに関するエビデンスの理解				内堀 真弓	
6		アドバンス・ケア・プランニング(2)	アドバンス・ケア・プランニングの実際と課題				内堀 真弓	
7		長期療養過程にあるがん患者・家族の療養の場の選択における倫理的課題					(非常勤) 佐藤	
8		長期療養過程にあるがん患者・家族の療養の場の選択における倫理的課題の解決に向けた人材育成					(非常勤) 佐藤	
9		がん患者と家族の暮らしに関わる社会的課題					(非常勤) 中島	
10		がん患者と家族の暮らしに関わる社会的課題の解決に向けた仕組みづくり					(非常勤) 中島	
11		がん患者・家族の療養過程を支える看看連携の現状と課題					(非常勤) 角田	
12		がん患者・家族の療養過程を支える看看連携を円滑にする体制構築					(非常勤) 角田	
13～20		がん患者と家族の療養生活を地域で支えるための高度ながん看護の実際	がん患者に対する訪問看護の実際について臨地講義を受講する(第13回)。 講義内容をもとに、訪問看護の場の見学計画書を作成・発表し、助言を受ける(第14回)。 訪問看護の場を1～2日程度見学する(第15～19回)。 見学内容に基づき、がん患者と家族の療養生活を地域で支えるための高度ながん看護を考察して、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う(第20回)。				(非常勤) 黒崎	

回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法		担当教員
21～28		在宅での看取りと死別後の家族ケアのための看護システムの実際	がん患者の在宅での看取りと死別後の家族ケアのための看護システムの実際について臨地講義を受講する(第21回)。 講義内容をもとに、在宅での看取りと死別後の家族ケアの場の見学計画書を作成・発表し、助言を受ける(第22回) がん患者の在宅での看取りと死別後の家族ケアについて、訪問看護師の活動を1～2日程度見学する(第23～27回)。 見学内容に基づき、がん患者の在宅での看取りと死別後の家族ケアのための看護システムのあり方を考察して、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う(第28回)。		(非常勤) 鮎澤
29～30		がん患者・家族の療養過程で生じる倫理的課題ならびに看護システム上の課題解決のための方略の探求	プレゼンテーション(第29回)ならびにディスカッション(第30回)		内堀 真弓
教科書	指定しない		参考書等	指定しない	
履修条件	なし		評価方法	1. プレゼンテーション内容(60%) 2. 授業への参加態度(討議内容を含む)(40%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する	
備考	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」(2単位)に相当する。 事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。アクティブ・ラーニングを活用する。予習復習に要する時間は24時間以上である。				

授業科目	がん看護学演習		科目責任者	内堀 真弓	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	60	受講セメスター	1,2年次 後学期
到達目標等	概要	がんの診断からエンドオブライフの時期（家族に対しては患者との死別後の時期を含む）に至るまで、キュアとケアを統合した高度な緩和ケアを患者・家族に提供するための看護実践方法を修得する。特に臨床判断過程とケア計画については、シミュレーション学習を通して看護実践能力を向上させる。						
	到達目標	がんの診断からエンドオブライフの時期に至るまで、高度な緩和ケアを患者・家族に提供するための看護実践方法を修得する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1		ガイダンス キュアとケアを統合した高度な緩和ケア：概説					内堀 真弓	
2～5		的確な患者アセスメントのための観察スキル	講義：観察スキルを高める意義と方法（第2回） 演習：ディベックス・ジャパン『乳がんの語り』より指定のコンテンツを視聴し、観察記録を作成、観察内容のアセスメントを行う（第3～4回）自己の観察スキルの振り返りについてのプレゼンテーションとディスカッション（第5回）				内堀 真弓	
6～9		コミュニケーション・スキル	講義：コミュニケーション・スキルを高める意義と方法（第6回） 演習：自らの看護実践経験から、患者とのコミュニケーションを振り返りたい場面をもとに事例を作成し、ロールプレイを行う。行ったコミュニケーション場面のプロセスレコードを作成し、コミュニケーションを振り返る（第7～8回）。 振り返った内容についてディスカッションを行い、コミュニケーションにおける自己課題を明確化する（第9回）				内堀 真弓	
10～14		高度な緩和ケアを提供するための臨床判断過程とケア技術：がん性疼痛	がん性疼痛事例に対する臨床判断過程とケア計画：プレゼンテーションとディスカッション（第10～11回） 立案したケア計画の実践：模擬患者を導入したシミュレーション学習（第12～13回） 模擬患者に対するケア計画の実践の振り返り：プレゼンテーションとディスカッション（第14回）				内堀 真弓	
15～19		高度な緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程とケア技術の探求方法：倦怠感	倦怠感事例に対する臨床判断過程とケア計画：プレゼンテーションとディスカッション（第15～16回） 立案したケア計画の実践：模擬患者を導入したシミュレーション学習（第17～18回） 模擬患者に対するケア計画の実践の振り返り：プレゼンテーションとディスカッション（第19回）				内堀 真弓	
20～24		高度な緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程とケア技術の探求方法：消化器症状	消化器症状事例に対する臨床判断過程とケア計画：プレゼンテーションとディスカッション（第20～21回） 立案したケア計画の実践：模擬患者を導入したシミュレーション学習（第22～23回） 模擬患者に対するケア計画の実践の振り返り：プレゼンテーションとディスカッション（第24回）				内堀 真弓	
25～29		高度な緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程とケア技術の探求方法：呼吸器症状	呼吸器症状事例に対する臨床判断過程とケア計画：プレゼンテーションとディスカッション（第25～26回） 立案したケア計画の実践：模擬患者を導入したシミュレーション学習（第27～28回） 模擬患者に対するケア計画の実践の振り返り：プレゼンテーションとディスカッション（第29回）				内堀 真弓	
30		高度な緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程とケア技術：まとめ	これまでの学びの振り返り・自己課題のプレゼンテーション				内堀 真弓	
教科書	指定しない			参考書等	指定しない			

履修条件	なし	評価方法	1. プレゼンテーション（60%） 2. シミュレーション学習における看護実践内容（20%） 3. 授業への参加態度（準備、発表および討議内容を含む）（20%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目はがん看護専門看護師専攻分野専門科目「緩和ケア」（2単位）に相当する。事前及び事後の学習課題について、十分に取り組むこと。アクティブ・ラーニングを活用する。予習復習に要する時間は24時間以上である。		



専門科目

実践看護学領域
実践看護学特別研究





専門科目

地域看護管理学領域
老年看護管理学





専門科目

地域看護管理学領域
地域看護管理学





専門科目

地域看護管理学領域
診療技術看護管理学



授業科目	母性看護学演習（令和5年度までの入学生対象）		科目責任者	角川 志穂	単位数	2.0	必修選択別	選択
			学内調整者		時間数	30	受講セメスター	1,2年次後学期
到達目標等	概要	周産期における正常経過から逸脱した対象者について、産婦人科学的な診断・治療の考え方を理解する。医師や多職種との協働を踏まえ、状況・診断・治療に応じた看護支援を検討するとともに、最新のエビデンスに基づく高度な看護介入の実践について思考する。						
	到達目標	1.周産期において正常経過から逸脱した対象者についての産婦人科学からみた診断・治療の考え方について理解する。 2.医師および他職種との協働を踏まえ、ケースの状況・診断・治療に応じた看護的な支援について思考する。 3.周産期における正常経過から逸脱した対象者のケアについて現時点でのエビデンスを確認し、根拠に基づいた高度な看護介入の実践における産科医師との協働について思考する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1～5		周産期における超音波診断の実際（妊娠中に胎児異常が指摘されている事例を中心に、その実際を理解する）					(非常勤) 桑田	
6		超音波診断結果によりリスクを指摘された妊産婦へのケア					角川志穂	
7～9		ハイリスク妊産婦の産科学的診断・治療の実際(1)（切迫流早産）					(非常勤) 高橋	
10		ハイリスク妊産婦の症状アセスメントとケア(1)（切迫流早産）					角川志穂	
11～13		ハイリスク妊産婦の産科学的診断・治療の実際(2)（妊娠高血圧症候群、HELLP症候群等）					(非常勤) 鈴木	
14		ハイリスク妊産婦の症状アセスメントとケア(2)（妊娠高血圧症候群、HELLP症候群等）					角川志穂	
15・16		ハイリスク妊産婦の産科学的診断・治療の実際(3)（妊娠糖尿病）					角川志穂	
17～20		ハイリスク妊産婦の症状アセスメントとケア(3)（妊娠糖尿病）					角川志穂	
21・22		周産期における性感染症の診断・治療・看護・予防への支援の実際					角川志穂	
23・24		周産期における受胎調節への支援の実際					角川志穂	
25～30		周産期における診療ガイドラインの活用（NICE、産婦人科診療ガイドライン-産科編-、助産所業務ガイドライン等を読み解く）					角川志穂・川野	
教科書				参考書等	適宜提示する。			
履修条件	なし			評価方法	参加・討議内容（プレゼン含む）50% 課題レポート50% 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			

備 考	本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野専門科目（2単位）に相当する。事前準備として、各担当教員より提示された事例について情報収集、アセスメントを行い看護や治療の方向性についてまとめた上で演習に臨むこと。事後課題としては、演習での学びをもとに事前に立案した看護や治療について見直し、課題レポートを作成すること。予習復習に要する時間は24時間以上。本科目は、アクティブラーニングを活用して行う。
--------	---



専門科目

地域看護管理学領域
地域看護管理学特別研究



